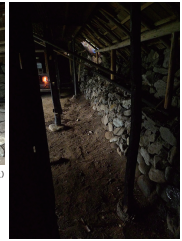
ヒユラノラ　HIURANORA

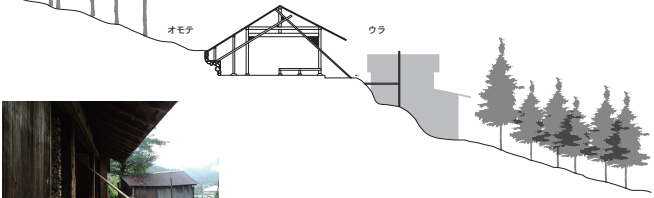
奈良県天川村南日裏 Minamihiura, Tenkawa, Nara

幸家大郎 *、舩橋耕太郎 **（KOKE Taro*，FUNAHASHI Kotaro**）
幸家大郎建築研究所 *、舩橋工務店 *（TARO KOKE ARCHITECT*，FUNAHASHI KOUMUTEN**）

①オモテの石垣との繋がり（写真上）



②山側（オモテ）（写真上）



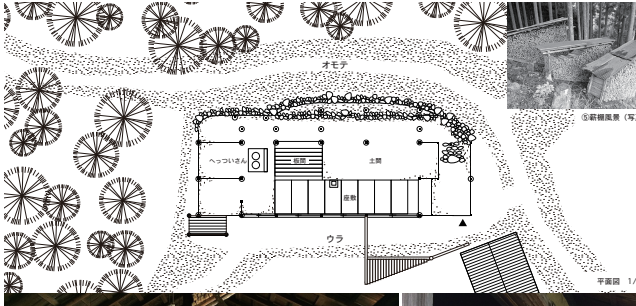
断面図　1/200

③谷側（ウラ）（写真左）

④ウラへの眺め（写真左）

対象は奈良県天川村南日裏地区の斜面に立つ、かつて林業従事者の住んでいた古小屋である。北西には植林の山が立上がり、南東の谷の先に天の川が流れている。戦後に建てられたこの空家は経年により老朽化が進んでおり、中外には多くの荷物・資材が散乱していた。本計画ではこの建築を片付けながら解体を進め、次第にそこに新たな空間を発見、再構築することを建築手法とした。建築は山側、谷側に対して特徴的な方向性をもった構成をしている。この地域では古来より山側の空間をオモテ、谷側の空間をウラと呼んでいる。オモテは敷地確保のため石垣で土留めされ、ウラには庭や眺望がある。建物はとくにウラの痛みが進んでいたので、床を剥がし土間とし、板壁を剥がし、隠れていた石垣を露出させた。納屋は入口として新たに見立て、建物への導入を演出した。一旦オモテに引込み、ウラへと開放するシークエンスである。既存の構造躯体を地勢に対して斜材で再固定し、その隙間に薪を詰め補強した。これは地域の薪棚からヒントを得たものだ。建築の材料はほぼすべて、放置されていた資材と解体資材で構成した。こうして手入れした古小屋を「ヒユラノラ」（日裏のウラ）と名付けた。「ヒユラノラ」は現在でも地域住人と外から訪れる人とが集まることのできる場として利用されている。

主な用途：集会所	Main use : meeting place
敷地面積：320.00 ㎡	Site area : 320.00 ㎡
建築面積：82.70 ㎡	Building area : 82.70 ㎡
延床面積：82.70 ㎡	Total floor area : 82.70 ㎡



平面図　1/200

⑤薪棚風景（写真上）

⑥内観（写真上）

⑦薪詰め詳細（写真上）